

明治30～40年代 岐阜教育所時代の思い出

\*昭和59年10月に、久世信一さんに聞き取りした原稿を編集したものです。

原文は、質問に答える形式ですが、質問部分を省き、話し言葉を「でした・ました」に変えたり、読みやすくしています。

\*久世信一さんは、明治35年4月18日生まれ

久世…私の父親の名前は、久世甚九郎と言い、岐阜県揖斐郡揖斐町から明治31年に今の岐阜に入植しました。こっちに来る前は、寺や神社ばかりを造る大工をしていましたが、入植してからは農業一本でした。林與平さんのところで数年働き、その長女と結婚して分家し、私がここで生まれました。

当時、7号に説教所があつて、そこに教育所もあり、説教所で説教をしているお寺さんが子どもを集めて教えていました。その後、鑑沸の学校にいた生田さんのおじいちゃんが先生をしていました。

\*注…説教所と教育所

\*明治33年3月 岐阜団体簡易教育所として、高橋藤弥氏の小舎を借り受け

創立。5月3日授業開始。男6人 女10人 計16人 (錦水小学校沿革史)

\*明治33年5月1日 本願寺駐在布教使加藤徹玄師、妻子とともに来住。

林與平宅を庫裡として布教。8月、浄土真宗本願寺派岐阜説教所建設。

西5線7号の近くに、400坪の土地に草葺き囲20坪の説教所が建てられ、

加藤徹玄師は後に、簡易教育所の教師も兼務。(常楽寺開教百年史)

\*説教所の新築により、児童の教養上好都合なので、場所を借り受け移転。

(錦水小学校沿革史)

\*生田錫三郎 代用教員として、明治37年3月赴任、明治41年6月16日退職

(錦水小学校沿革史)

その頃。私はまだ4つか5つだったかもしれません。2つか3つ年上の子どもがみんな小さい子どもを連れて学校へ行っていました。私もおばに連れられて行きました。勉強しながら子守をしていたものです。おばについて、毎日学校に行き、生田先生に「先生おはよう、奥さんおはよう」って言いながら教室に入っていた記憶があります。先生の子どもと友だちだったから、よく遊びに行きました。

そして、1～2年ぐらいたった時に、佐藤商店のところに本当の教育所ができました。教室1部屋と先生の住宅があつて、その時は富田繁蔵さんという先生が1人きりでした。私は、この新しい教育所ができて1～2年経ってから入学しました。学校から近く、しょっちゅう遊びに行っていたので、先生から1年早けれど、いつも学校に来ているから何でもない、入ったら良からうということでも1年早く入学しました。

\*注：教育所の新築移転

\*明治40年11月 児童の増加により、村役場で校舎新築を議決、百円の補助を受け、その他の費用は部落請負として同月に工事着手。

明治41年6月30日新築校舎落成、7月1日授業開始。(錦水小学校沿革史)

\*富田繁蔵 訓導兼校長として明治41年9月26日赴任、明治43年7月30日退職

富田チヨウ 裁縫専任として明治41年11月10日赴任、明治43年7月30日退職

\*久世信一さんの入学は、校舎新築後ということなので、明治42年4月入学と思われず。

4年生くらいになって、また大きな校舎ができて、先生が2人になりました。

\*注：校舎の新築

明治45年、児童増による不便・狭隘のため、部落の寄付金千100円で校舎新築を

計画・起工、大正元年10月落成し、11月に新校舎へ移転、授業開始。

学校のある場所は、春先に雨が多く降るとライトコロ川の水が増え、いっぱいにあふれ、授業をさぼって上級生と見に行ったことがあります。上級生たちは先生に立たされ、泣いていた覚えがあります。春先の雪解けの頃、年に1回はライトコロ川の水があふれたものです。